



記者発表資料
令和4年8月22日
復興・危機管理部復興支援・伝承課
担当：伊藤，相澤
電話：022-211-2443
e-mail：denshod@pref.miyagi.lg.jp

広報紙「Baton (バトン)」の発行について

東日本大震災の発生から、間もなく11年半が経過しようとしており、震災の記憶の風化が懸念されています。

国内外に向けて、正確かつ最新の情報を継続して発信していくとともに、幅広い層に復興や伝承について関心を持っていただき、被災地へ足を運ぶ人の裾野を広げるため、このたび新たな広報紙「Baton (バトン)」を発行することとしましたので、お知らせします。

1 発行

年4回（令和4年度は8月・10月・1月・3月）

2 部数

17,500部

3 配布先

伝承施設や観光施設、観光案内所等を中心とした約330箇所

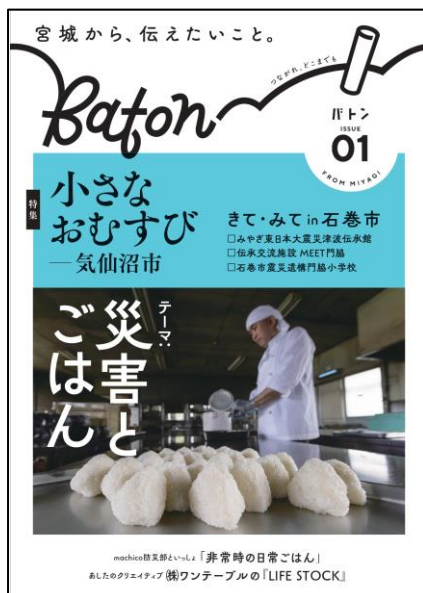
4 ポイント

- ・広報紙のタイトル「Baton」には、世代や地域を越えて広く「伝える」、リレーのバトンのように「つなげていく」という意味が込められています。
- ・読者の方が自ら被災地を訪れ、「学び」に繋がっていただくために、書き込みや切り取って持ち運ぶことができる紙面構成としています。
- ・なお、今後は広報紙と連動した動画やポスター、パネルの制作を実施していくこととしています。

5 紙面イメージ

※県公式ホームページでも公開

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/densho/baton-densho.html>



わたしにもできる 非常時のごはんサポート

避難のめりは狭くても、どんな場合でも周囲とのコミュニケーションが欠かせません。特に「食」は命に関わるもの、困っていても声をかけられる、困っていても声をかけられる、勇気を出して声をかけることが誰かを助ける一歩にもなります。

「やさしい日本語」で話しかけよう

非常時には、普段聞き慣れない言葉が飛び交います。東日本大震災の際は、外国人の方や障がいを持つ方に「やさしい日本語」が活用されました。そんなときに大切な「やさしい日本語」で声をかけられることで、平穏な表現で話しかけることで、相手も聞きやすくなり、困っていても声をかけられます。やさしい日本語とは：簡単な表現で日本語のこと、外国人や、子ども、高齢者、障がいを持つ方のコミュニケーションに効果的。

「やさしい日本語」のポイント

- 単語の間は切って話す
- 具体的なことばで説明する
- 熟語や敬語を使わない
- 実物があれば見せて話す

「やさしい日本語」のメリット

- 「避難所」に一人でいる方に声をかけられる外国人の方で、「飲み出し」や「物資」など初めて聞く日本語が多くなってしまっている。困っている人への声かけが、丁寧な日本語で話しかけてくれることが大切だと感じました。
- 「避難所」は学校とアルバイト先の住居で、食材は出身地の食品をネットで購入しているため、近所のスーパーを知りませんでした。地震発生後、近所に住む日本人が、近所のスーパーに食材があることを教えてくれました!

書いてインプット

次のことばを「やさしい日本語」に言い換えてみましょう


炊き出し..... 主食.....

断水..... 支援物資.....

自分の備えが周りを救うことも

普段から避難の力を交流している、物を備えておく、いざという時に必要なアイテムを準備しておくことで、助け合いにつながります。

飲み水は乾かすのが、体力が落ちている方の助けにもなる



やわらかく、ある程度まとまりがある、のびのびしたものの（レトルトカレー、レトルト粥など）

持ち手つきのカップ（缶）

障害者支援施設 石巻市障がい児の会 代表 佐藤 美穂

避難時は「食べ」の備えだけでなく、避難などのやりかたや生活に必要なものが揃っていることが重要だと感じました。その経験から、現在は避難所に加えて避難所へも備蓄しています。また、手が不自由な方にとっては、瓶蓋などを開けやすいように、お粥のような持ちやすい食料を準備しておくことも大切だと感じています。

避難所での備えや下準備が、避難先で役に立つことになりました。

考えてみよう わたしの非常時ごはん

毎日の食事がそれぞれ異なるように、非常時の食も「自分に合った備え」があります。自分や大切な人のための「非常時ごはん」を一緒に考えてみましょう。

乳幼児・幼児の場合

- 粉ミルク/液体ミルク
- レトルトの離乳食
- 食べ慣れたお菓子

万が一に備え、液体・粉ミルクや離乳食、お菓子などは食べ慣れたものをローリングストックしておくことが大切。日頃からいろいろな種類を試し、いつでも「食べ慣れたもの」のストックが広がります。

アレルギーを持つ人

- アレルゲンフリーの非常用食品
- ふだん食べているアレルギー対応食品
- 同じ症状を持つ人のネットワーク

アレルギーを持つ方や、飲み込む力が弱い方など、「特別食」が必要な場合、自身の備えはもたら、この「特別食（スーパー）」に「同じ備え」があるという信頼関係が広がるネットワークも設立しています。

書いてインプット

Q: あなたが「食べるとほっとする食べ物」はなに?

Q: 加熱が必要かどうか試してみよう

3月11日のような大震災がもし自分の身に起こったら、どんな準備が必要で、どう準備をしようか、おきたらどう行動しようか、考えてみました。

きてみてマップ

石巻市津波復興拠点公園周辺

被災を乗り越え、希望と笑顔が溢れるまちを築いていく。避難生活の疲れを癒す、希望と笑顔が溢れるまちを築いていく。避難生活の疲れを癒す、希望と笑顔が溢れるまちを築いていく。



1. いしのまき 光あいらび

2. 工屋 かざみどり

3. こころの森 ガーデンカフェ

4. 石巻市障がい児の会

5. リアム・アーク

6. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

7. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

8. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

9. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

10. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

11. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

12. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

13. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

14. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

15. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

16. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

17. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

18. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

19. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

20. 石巻市障がい児の会 津波復興拠点

宮城県の主な震災伝承施設

宮城県は、震災伝承施設が数多くあります。ぜひ訪ねてみてください。

石巻市震災遺構門脇小学校

津波被災の惨状を知り、命を守る術を学ぼう

この小学校は、震災発生時に津波に襲われ、校舎が壊滅した。津波の被害を伝えるために、この小学校を震災遺構として保存し、震災伝承施設として活用している。

施設④

1. 津波の被害を知る 2. 命を守る術を学ぶ 3. 震災を伝える

この小学校は、震災発生時に津波に襲われ、校舎が壊滅した。津波の被害を伝えるために、この小学校を震災遺構として保存し、震災伝承施設として活用している。

津波の被害を知る、命を守る術を学ぶ、震災を伝える。この小学校は、震災発生時に津波に襲われ、校舎が壊滅した。津波の被害を伝えるために、この小学校を震災遺構として保存し、震災伝承施設として活用している。